

国指定 史跡

新里村遺跡

指定年月日 平成3年9月11日

所在地 字竹富

竹富島の北海岸近くにある花城井戸という井戸を中心にして、その東側と西側に広がる集落遺跡を新里村遺跡といいます。花城井戸の東側が12世紀末～13世紀、西側が14世紀の集落遺跡になっていて、14世紀の集落遺跡の屋敷は高い石垣で囲まれ、屋敷と屋敷は小さな通用門で結ばれています。集落内に道が見られないことから、現在の集落と違った集落形態であったと考えられ、竹富島の集落の変遷を知る上で貴重で、学術的な価値のある遺跡です。遺跡からは大量の中国製陶磁器の白磁、青磁、滑石陶器(いわゆる南蛮磁)や、竹富島で焼かれたと考えられる外耳土器、鍋形土器、壺形土器、また鉄鍋、鉄製のへら、刀子(小刀)等が出土しています。



【小城盛】

小城盛は、竹富集落の北端にあり、チャートを基盤とする標高20mの岡に北壁の高さ4m、南壁の高さ4.4mの琉球石灰岩を積み上げた石積遺構です。頂上には方位石があります。小浜島や黒島の烽火を石垣の蔵元に繋ぐ役割を果たしていました。

県指定 史跡

蔵元跡

指定年月日 昭和34年12月16日

所在地 字竹富志登保原

竹富島の蔵元跡は、園比屋武御嶽の石門を築した西郷が、その功績により1524(尚真48)年に竹富首里大屋に命ぜられ、八重山を統治するために創設された首里王府の役所で、1543(尚清17)年に石垣島に蔵元が移転されるまで八重山統治の要として機能していました。現存する蔵元跡の敷地は約700㎡の広さで、屋敷を囲む石積みが残っています。



竹富町指定史跡 ミーナ井戸

昭和47年8月30日指定

ミーナ井戸(カー)とは、神の見つけた井戸という意味で、この井戸には次のような言い伝えがあります。大昔、天降りの女神マリツがこの岩屋に住んでおり、人知れず一生懸命に清水の湧き出る水脈を探し仕事をしていました。ある日、それを知ったソコツ神が北と南に分かれて岩を掘り、北の泉はマリツ、南の井戸はソコツの夫婦泉になりました。これが竹富島の井戸の始まりといわれています。後に久間原御嶽の神、久間原発金が久間原集落の井戸として使用してきたことから、現在では久間原御嶽の神司がこの井戸の願いを行なっています。



【プズマリ】

プズマリは、くろしま黒島宮里集落の南側、宮里海岸の近くにあります。基底部分の直径約20m、高さ約9m、上面の直径約3.4～4.7mのいこう琉球石灰岩を積み上げた石積遺構です。火番盛としては、典型的なうずまき渦巻状の形状をしています。*方位石は確認されていません。



【タカニク】

タカニクは、あらぐけじま 新城島（かみらじま 上地島）の集落の北北東約 300 m にあります。基底部分の直径約 7m、高さ約 2.8 m、上面の直径約 3m の三層の琉球石灰岩の石積みからなり、正面には階段が設けられています。石積みは各々円形状に三層に築かれています。

町指定 史跡

クイヌバナ

指定年月日 昭和47年8月30日

所在地 字新城

新城島上地のクイヌバナは、島の西にある港に近い海岸に突き出た岩の上であって、東、北、西の3方に石積みをめぐるせ、その内側には200m程の屋敷跡、拝所、そして石積みが高く積み上げた物見台があります。ここは本来海上航路の監視や、火を焚いて情報を伝達するため築かれたものと考えられますが、民謡の「越又頂節」にも謡われるように、島全体と、青く澄みきった海と対岸の西表島を見渡すことのできる景勝地としても有名です。



国指定 天然記念物

タブの老木

指定年月日 昭和47年8月30日

所在地・所有者 字西表 祖納 大竹八重男

西表島祖納の大竹御嶽の一角はクハの群生になっていますが、その中に一本だけタブの老木がそそり立っています。このタブの老木は、高台にありながら、長年に渡る風雨に耐え、まさに老樹の風格を漂わせています。推定樹齢は約280年と考えられおり、幹の周囲約4.5m、高さは10mに達しています。



国指定 国指定文化財

大平井戸

指定年月日 平成10年3月31日

所在地・所有者 字西表東祖納580 大田 長全

大平井戸は、西表島祖納集落にある井戸で、伝承によれば今から約500年前、まだ祖納の集落が祖納半島の高台の上「上村」にあった当時、高台で水に不自由していたところ慶来慶田城用緒がこれを解消するために掘ったものといわれています。その後、飲料用水の井戸として祖納の人々の生活を支え続けてきたことから、水恩に感謝する儀式が行われるようになり、今日では祭事の3日目、トッヅミの日の水恩感謝の儀式、奉納荘庭がこの大平井戸で行われます。



国指定 史跡

大竹祖納堂儀佐屋敷跡

指定年月日 昭和47年8月30日

所在地・所有者 字西表 祖納 大竹八重男

大竹祖納堂儀佐は、今からおよそ600年ほど前の人物で、与那国島を見つけ、これを平定したと伝えられています。この大竹祖納堂儀佐の屋敷跡は、祖納半島の高台の上であり、ここから西の海を眺めていたある晴れた日に、水平線のかなたに点のように、雲のように浮かんで見える島影を発見したのが与那国島であったといわれています。大竹祖納堂儀佐を祀っているのが「をはだけ根所」で、現在は大竹御嶽と呼ばれています。



国指定 史跡

慶来慶田城翁屋敷跡

指定年月日 昭和48年9月12日

所在地・所有者 字西表 祖納 宮良用庸

祖納半島の丘の上、上村と呼ばれる旧集落跡に慶来慶田城翁屋敷跡はあり、石積みで囲まれた屋敷跡が残っています。慶来慶田城家の初代、翁氏の開祖である慶来慶田城用緒は、今からおよそ500年前の英雄で、石垣島の平久保加那按司を征伐したという伝承が残されているほか、外国船との交易によって勢力を築いたといわれています。1500年のアカハチ・ホンガワラの乱に際しては首里王府軍に協力し、その功によって西表首里大屋子の職を任じられました。



県指定 建造物

新盛家住宅

指定年月日 平成6年3月31日

所在地・所有者 字西表620番地 竹富町

新盛家住宅は、西表島西部の祖納集落に残る古い民家で、テーブルサンゴを用いた石垣と防風林の福木に囲まれた屋敷に建てられた木造平屋建て、茅葺き屋根の家屋です。この家屋は沖縄の木造建築の古い形式である眞木屋と呼ばれる造りで、柱に貫穴を空け、貫を通して横で締める構造になっており、釘や鉄などは使われていません。確かな建造年代は判っていませんが、現存する木造茅葺きの民家としては沖縄県内で最も古いものと考えられています。



町指定 史跡

下り井戸 (アンヌカー：東の井戸)

指定年月日 昭和47年8月30日

所在地 字鳩間

この井戸は、鳩間島の集落の東側に位置することから東の井戸とも呼ばれています。石灰岩の自然洞穴になっていて、20mほど斜めに下ったところに地下水が湧き出ています。昔の島人にとっては唯一の飲料水用の水源地であったといわれており、戦前まではこの水を汲むためにバケツを持った人たちが列をつくっていました。



インヌカー (西の井戸)

1748年(乾隆13)に脇筆者黒島仁屋から上申された「請筑登之座敷」に、「用水不自由にこれ有り、船路老里余差し超し汲み来候に付き、村付近に井堀させ」と黒島仁屋がインヌカーを掘らせた。黒島仁屋の末裔が井戸の祈願を担当しており、外観が手鏡に似ていることからティーンガンカー(手鏡井戸とも言われている。)

※脇筆者とは琉球王府の各役所に勤める書記官の補佐役である。



ナカムリ 【中森】

中森は、鳩間島中央よりやや南の、島で最も高い標高約33.5mの小丘にあります。現在、近くには灯台が設置されています。*方位石の存在は確認されていません。また、同地には先島先史時代後期の時期に位置付けられる鳩間中森貝塚があります。



【コート盛】

コート盛は、波照間島の公民館の北北西約300mに位置し、基底部分の直径が約8.2m、高さ約3.8m、上面の直径が5.5～6.6mに積み上げられた石積み遺構です。石積みは二層に廻され、右側から貫くように階段が築かれており、頂上部には方位石があります。

国指定 史跡

シムスケー（古井戸）

指定年月日 昭和47年8月30日

所在地 宇波照間

シムスケー（古井戸）は、波照間島の北海岸に近い旧シムス村跡の番所側にある下り井戸式の井戸です。この井戸は水豊富、水質良好で、昔の島人にとってかけがえのない貴重な水源でした。大旱ばつになって島じゅうの井戸が枯れ果てても、この井戸だけはいつまでも水を湛え、島の人々の生活を支え続けてきました。「シムスケーのお世話になる」ということが、大旱ばつの代名詞になっていたほどです。この井戸には、次のような由来が伝えられています。

昔、波照間島が7ヶ月にも及び大旱ばつにみまわれ、人々が水不足と飢饉にあえいでいたとき、シムス村のベフタチパー（ベフタチは名、パーはお婆さんの意で、貝敷家の先祖）のアマラ牛（赤牛）が角や前足で石や土をかきわけ、水を掘り当てて飲んでいました。これを見たベフタチパーは村人を呼び、みんなで井戸を掘って水不足から救われたのでした。その後人々は、この牛を神の化身だと崇拝し、牛の死後は手厚く葬って、井戸の側に牛の肝に似た石を据えて拜所としたといわれています。現在、毎年の豊年祭では、5集落の御嶽より供物を贈り、感謝の意を表しています。



国指定史跡 下田原城跡

下田原城跡は日本最南端の波照間島の北海岸に面した標高約25mの琉球石灰岩台地上に築かれています。北東方向に延びる断崖を利用して、人の頭よりやや大きい石灰岩の自然石を野面積みにした石垣に囲まれています。15世紀から16世紀に城として機能していました。

城跡は石垣に囲まれた複数の郭によって構成され、石垣は東西約200m・南北約150mにわたっています。

今から500年以上も古い時代から、現在まで改変や戦災を受けずに、良好に遺構が保存されています。このことから、古琉球から近世琉球までの歴史上重要な時期の様子を明らかにする上で貴重な遺跡です。